

一口メモ

入院予定の患者が、入院中にどのような治療過程を経るのかをイメージし、安心して治療を受けられるようにする支援を「入院前支援」という。富山大附属病院では、入院生活に関するオリエンテーション、入院中の治療の説明などを実施している。普段の生活状況も聞き取り、入院中のケアや退院支援に生かせるようスタッフと情報共有している。

知りたい!  
治療の最前線

◇9

療養生活のトータルサポート

富山大附属病院の医療福祉サポートセンターは、地域の医療機関との連携や、患者さんが抱えるさまざまな問題の解決、療養上の支援を目的に設置されました。療養生活をトータルサポートするために日々活動しています。

# 患者の不安 最小限に



登録医の情報が表示される「メディカルナビタ」＝富山大附属病院

富山大附属病院と地域の医療機関の連携について説明するパンフレット



◇ 次回は8月6日に掲載します。

「地域包括ケアシステム」とい言葉をご存じですか？ 高齢化により、日本では2025年以降、医療や介護の需要がさらに増加すると見込まれています。そのため厚生労働省は、高齢者が医療や介護が必要になっても、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けるための体制「地域包括ケアシステム」の整備を進めています。

富山大附属病院では入院が決定した時点から、退院後の生活を見据えて支援します。例えば、治療後すぐに帰宅することが難しい場合は、リハビリテーションを専門に行う病院に転院してもらうなど、患者さんの状態に合わせ対応します。助けがあれば自宅で生活できるという方には、地域の訪問看護師やケアマネジャーに連絡し、在宅での療養を支えてもらっています。患者さんが自分らしく療養生活を送られるように、ご家族とも相談しながら一連の支援を行っています。

一度しかない人生、どうやって自分らしい暮らしを最後まで続けるか。患者さんが自ら意思決定し、病後の生活をより充実したものにする。そのお手伝いを少しでもさせていたきたい。スタッフ全員思いは同じです。

## 切れ目のない支援

利便性の向上と地域医療連携の推進を目的にタッチパネル「メディカルナビタ」が設置されています。内容によって社会

養指導を行っています。何か困られていることがあれば相談に応じますので、気軽にお立ち寄りください。

当院の医療福祉サポートセンターは、地域医療連携室、総合医療相談室、入退院支援室の3部門から成ります。地域医療連携室では、他の医療機関と連携し、さまざまな業務を行っています。紹介された患者さんの窓口として受診予約を受け付け、当院からも患者さんを紹介します。今年6月には、患者さんの

多様な相談に対応  
病気になるといういろいろな問題や心配事が生じることがあります。総合医療相談室では、

されました。画面に触れると、当院と連携している登録医の情報や場所が表示されます。分かりやすく情報を発信しているの、来院された際にはぜひ試してください。



大井 圭子

富山大附属病院  
医療福祉サポート  
センター看護師長

福祉士や看護師、がん相談支援センター員、栄養士らが対応します。治療方針や診断について他の医師に意見を求める「セカンドオピニオン」に関する相談も受け付けます。

退院後見据えて

「地域包括ケアシステム」